

福島県広野町

えんどう さとし
遠藤 智 町長



視界のない中で航海をして
いるような8年間

平成25年12月に町長として就任した時の私の命題は、「避難した住民が故郷に戻って生活を取り戻し新たなふるさとでの生活の営みを成し得ていく」でした。毎年目標を立てて取り組んできましたが、本年は「ふる里復興・創生「新生の年」と位置づけ、日本一元気な町づくり」を目標に掲げて、震災から新しい時代の、新たなまちづくりに向けて、全身全霊、全力で取り組んでいるところです。震災から8年になりますが、苦労したことといえば、ひとつは、全く住民がいなくなったところ

ふるさと ～町長室から～ 便り

【広野町情報】

〔面積〕
58.69km²
〔人口〕
4,741人(平成31年2月末現在)
〔発電所データ〕
東京電力フェUEL&パワー株式会社
広野火力発電所



成し得ないと常々職員に言ってきましたが、そのご厚情にしっかりと応えていくという決意を持たねばならないと思っています。

被災地で問われるのは「人の生き方」

私の好きな言葉に「継往開来」という言葉があります。

先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開くことを意味します。広野町は来年、町制80周年を迎えますが、郷土の先人たちの歴史に敬意を示して、再生していく双葉郡の子どもたちに継承していかなくてはならないと感じています。

また、平成27年4月に先行して「福島県立ふたば未来学園高等学校」が開校しましたが、平成31年

4月から中学校が併設され中高一貫校になりました。被災地で最後に問われるのは「人の生き方」です。ですから

教育を念頭に、未来の子供たちを受け入れる環境づくりが、私たちの使命だと思っています。

おかげさまで、広野町の住



広野火力発電所



国際フォーラム



ふたば未来学園



Jヴィレッジ



ひろのてらす



バナナ



Jヴィレッジ



広野駅前の開発地域

民帰還率は90%を超えたと申し上げました。それでは、住民が帰還できない町はどうするのだ、となりますが、双葉郡のなかでこれから帰還する方々に良い意味での「ハレーション」を起こし、繋いでいただきたいとの思いで申し上げています。避難を余儀なくされて戻ってきた時、避難前と同じ生活をすることはできません。ですから、「創生」のまちの取り組みを通して住民の方に受け止めていただき、あるべき住民自治という姿が見いだされていくのではと思います。その意味で、今年1月に「福祉の町宣言」をしました。医療と福祉の4機関が協定を結び、新たな生活再建を捉えたまちづくりに着手していきます。

平成26年から続けてきた国内外から多くの人々を招く「国際シンポジウム」、「国際フォーラム」では、毎年テーマを掲げており、平成30年は『被災地』から『復興知』へ』というテーマで開催しました。国際フォーラムから地域フォーラムに軸足を置いて移行していった経緯がありますが、今年は新たな姿に変えて取り組んでいく予定です。

ご承知のように、広野町には「Jヴィレッジスタジアム」があります。5,000人のスタジアムでコンサートもできるようにもなりました。被災地の新たな創生には来訪者を受け止めることが重要だという意味から、多くの人々が来場されることを期待しています。

また、震災後に創立された中・高一貫の県立「ふたば未来学園」のほか、400万キロワットの出力数を誇る広野火力発電所があります。今後54万キロワットのIGCCが新設される予定ですが、これらは町の誇りです。

昨年、特産品をつくって、ふるさとを受け止めてもらいたいという素朴な思いから、ふるさと納税制度で特別栽培バナナをつくることができました。皮ごと食べられる「奇跡のバナナ」と捉えていたのですが、これも、被災地の希望として捉えていただけたら有難い。力強い復興の象徴として生きる力に繋がればよいと思っています。

双葉郡8ヶ町村はスクラムを組んで、力を結集

双葉郡8ヶ町村が、どういう自立・自活の「絵姿」を描けるか、グラウンドデザインを副町長会議で作成し、平成31年3月にプレスリリースしました。原子力災害から時間が経ち、8ヶ町村の置かれている状況が異なってきたがゆえに、双葉郡として復興は複雑で難しい。同じステージに立つのは一朝一夕にはできないなかで、力を合わせながら、受け止めあつて、協力を進めていこうと思えます。

城山三郎の本の一節に、「見えないところをどうやっていくか七転八倒しながらやっていくと、トネルの先が見えるようになる」という一節がありますが、これが今の心境です。8ヶ町村が動いていくのに広野町は何をすべきか、自問自答しながら、去年から今年にかけて、どのように今後の展望を描くかということをやってきました。

広野町の取り組みが、除染土のフレコンバックを中間貯蔵で受け止めてくれる町と、どのように繋がっていくのか、ということですが、昨年末の挨拶で、フレコンバックを中間貯蔵で受け止めてくれる町があるから、帰還できる町があるのだと、職員の前で自然と言葉が出ました。とても苦しいことです。しかし、被災地は走り続けなければならぬ。止まってはいけないのです。

8ヶ町村はしっかりとスクラムを組んで、力を結集しなければならぬと唱えています。双葉郡8ヶ町村の広域圏組合、町村会があつてこそ1/8の広野町であり、広野町だけで成り立つことは不可能なのです。共生社会という大きなテーマのもと、8ヶ町村がしっかりと連携していくという、強い思いでいます。(談)